

相模原市南区および中央区におけるクビアカツヤカミキリの生息状況調査

嶋本 習介^{*1}^{*1} 相模原市立博物館

はじめに

クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* (Faldermann, 1835) は中国大陸原産の外来種であり、モモやサクラなどのバラ科の樹木の樹幹を幼虫が食害することから（森林総合研究所, 2022）、特定外来生物に指定されている（環境省自然環境局野生生物課, 2017）。また、その被害の大きさから様々な機関が防除の資料を公表している（たとえば森林総合研究所, 2022; 東京都環境局, 2024）。

本種は2012年ごろに日本に侵入したと考えられており、2025年1月現在、13の都府県で確認されている（国立環境研究所, 2025）。神奈川県内では2021年に藤沢市ではじめて発見されたものの（神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課, 2024）、その後、追加の確認はされていなかった。ところが、2024年7月2日に相模原市南区文京で1個体が発見され（相模原市, 2024）、県内2例目の確認事例となった。本種は繁殖力や拡散能力が高いため、「早期着手・早期根絶」が対策の大原則とされる（東京都環境局, 2024）。そこで、相模原市内におけるクビアカツヤカミキリの生息状況について調査を行った。

方法

調査は2024年7月7日および8日に、相模原市南区および中央区の4区域で実施した（図1）。街路樹や公園のバラ科植栽木の樹幹上および周辺の地表を目視することで、幼虫が排出するフラスや成虫の有無について任意で調査した。



図1. 調査区域（①から④で示した道路および公園）。地理院地図に加筆し作成。

結果および考察

本調査ではクビアカツヤカミキリの幼虫が排出するフラ

スや成虫は確認されなかった。特に、相模原市（2024）における成虫の発見地を含む④南区文京区域では重点的に調査を行い、私有地以外に植栽されたバラ科樹木全てをくまなく確認したものの、本種やその生息の痕跡は確認されなかった。以上のことから、本調査を行った地域では本種は発生していないと考えられる。したがって、2024年7月に確認された本種1個体（相模原市, 2024）は、偶産によるものである可能性が高い。

クビアカツヤカミキリは、2025年1月現在、神奈川県では定着していないものの、東京都では分布拡大傾向にあり、本市に隣接する八王子市でも被害木が確認されている（東京都環境局, 2024）。そのため、飛翔や車両への付着などによって本種が再度相模原市内に侵入、定着する可能性は高い。相模原市内における本種の生息状況については今後も注視していく必要がある。

謝辞

本調査にあたり、相模原市における本種の発見の経緯についてご教授いただいた相模原市水みどり環境課に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課, 2024. 「クビアカツヤカミキリ」に関するお知らせ. <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/cnt/f986/kubiaka.html> (2025年1月31日閲覧).
- 環境省自然環境局野生生物課, 2017. 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律施行令の一部を改正する政令について. <https://www.env.go.jp/press/104814.html> (2025年1月31日閲覧).
- 国立環境研究所, 2025. クビアカツヤカミキリ. 侵入生物データベース. <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60560.html> (2025年1月31日閲覧).
- 相模原市, 2024. 市内でのクビアカツヤカミキリの確認について. 相模原市発表資料. https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/page/_001/030/936/0704/05.pdf (2025年1月31日閲覧).
- 森林総合研究所, 2022. クビアカツヤカミキリの防除法. 28 pp. 森林総合研究所, つくば.
- 東京都環境局, 2024. クビアカツヤカミキリ防除の手引. 48 pp. 東京都環境局自然環境部計画課, 東京.